

加賀東芝エレクトロニクス株式会社 サイトレポート情報

所在地 : 石川県能美市岩内町1番地1
敷地面積 : 330,593m²、建家面積 : 54,891m²、緑化率26.6%
設立 : 1984年12月、正規従業員 : 1,000名 (2010年3月末現在)

主要製品 : 小信号トランジスタ、パワートランジスタ、チップ

ISO14001認証取得 : 1998年9月(セミコンダクター社グループとしての統合認証
実施年月 : 2007年8月)、ISO14001統合認証の有効期限 : 2013年8月(2010年8月更新)、
ISO14001認証番号 : EC98J2014



ごあいさつ

加賀東芝エレクトロニクスは、東芝グループの半導体製造拠点として昭和59年(1984)に設立、製品の開発設計、チップから組立まで一貫生産をする最新鋭工場です。人間の叡智、先端技術を結集し、徹底した品質管理(ISO-9001)の下での安定した生産体制を誇ります。また、霊峰白山麓、辰口丘陵の自然から生命力を吸収し、美しい地球環境保全の取り組み(ISO-14001)を全社挙げて実行し、広く世界に、また次の世代へ感謝の心を守り伝えていきます。



環境保全責任者 谷全 祥市

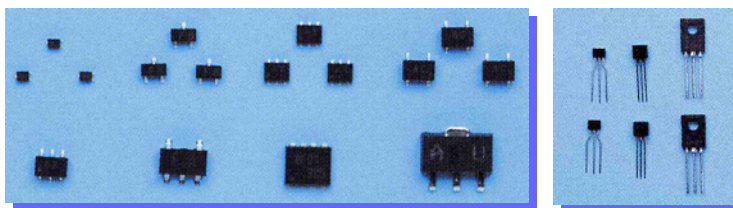
2009年度の環境の主な取り組み

- ☆地球温暖化の防止 : 省エネ施策によるCO2排出量削減⇒目標:1,429t-CO2、実績:1,954t-CO2、
:温暖化物質(ガス)排出量削減⇒目標:排出量20GWP千t以下・実績:17.5 GWP千t
- ☆資源の有効利用の推進 : 廃棄物総排出量の削減(有価物含)⇒目標:排出量2,750t以下・実績2,384t
:水資源受入量の削減(工水・市水)⇒目標:受入量2,644千m³以下・実績2,532 m³
- ☆環境リスクの低減 : 化学物質排出量削減⇒目標:排出量119.8t以下・実績109.2t
- ☆地域コミュニケーションの推進 : “石川の森づくり”(緑化ボランティア-33名)参加
: 環境報告書の発行、環境ニュース等。
- ☆環境意識の向上地域との協調 : 環境教育eラーニング化(9月実施)
: 清掃ボランティア活動(クリーン作戦-253名)参加。
: 三大環境月間(環境月間・3R月間・省エネ月間)の推進

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

マルチメディア時代を支えるキーコンポーネントとして
不可欠の個別半導体

当社が製造する個別半導体(ディスクリート)はマルチメディア時代に欠くことが出来ないキーデバイスであり、パーソナルコンピュータや携帯電話など、IT産業分野を中心に、デジタルスチールカメラや家庭用ゲーム機器など、様々な電子機器で活用されています。



環境コミュニケーションの紹介

地域コミュニケーションの充実

(加賀)環境報告書の発行



「クリーン作戦」への参加

当社周辺の通勤路や市内などの清掃活動「クリーン作戦」を、毎年、当社従業員やその家族らで、実施しています。2009年度は253名が参加しました。



「石川の森づくり」への参加

(社)石川の森づくり推進協会の実行委員として、「石川の森づくり」という活動に参加しています。将来世代への貴重な自然という資産を残すべく、植樹や下草刈などの活動を行っています。



加賀東芝エレクトロニクス株式会社 環境方針

－ 理念 －

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は東芝グループの環境基本方針である「“かけがえのない地球環境”を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。

低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

－ 方針 －

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は、(株)東芝 セミコンダクター社グループ環境方針に基づき、環境保全への取組みを経営の最重要課題の一つと位置付けます。清い手取川をはじめとする自然豊かな石川の地で、ディスクリート半導体の製造拠点として、製造、サービス、廃棄などにおける環境負荷の低減を経営と調和させながら積極的に行います。そして最先端のパワートランジスタの創出を通じて、エコカー、省エネ家電、LED照明、太陽光発電機器等の省エネ・省資源により社会に貢献することを目指します。

1.倫理観（コンプライアンス）と継続性（サステナビリティ）

- 1) 環境に関する、法令、条例、協定、当社組織が同意した業界などの要求事項および自主基準などを遵守致します。
- 2) 環境活動レベルの向上を図るため、監査の実施や活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

2.実行（エクセキューション）

企業活動の実行においては、開発、調達、生産、回収の全ての事業プロセスにおける環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の防止、環境配慮型製品の創出などに関する環境目的および目標を設定して、積極的な環境施策を展開します。

- 1) 生産性向上、動力・製造設備を中心とした省エネ施策と温室効果ガス排出量抑制施策を推進し、地球温暖化防止に貢献します。
- 2) 循環型社会構築のために、生産性の向上、技術の開発及び指針の策定と共に、3Rの取組みを積極的に進め、廃棄物の総排出量の削減、水資源の受入れ量削減施策の実施により資源の有効活用を推進します。
- 3) 使用する化学物質の管理ならびに特定した化学物質の削減に係る技術の開発及び指針の策定と共に、環境排出量の削減施策の実施により、環境リスクの低減を実現します。
- 4) 環境に関する情報発信、社会活動への参画を進め、地域・社会との相互理解を推進致します。
- 5) 組織の従業員の環境意識を高め、環境に配慮した企業活動を当社敷地内の構内常駐会社およびその従業員を含む全部門・全従業員で実行します。

<この環境方針は、当社敷地内の構内常駐会社及びその従業員を含む全部門・全従業員、取引先等に周知するとともに、一般の人にも開示します。>

2010年 7月28日

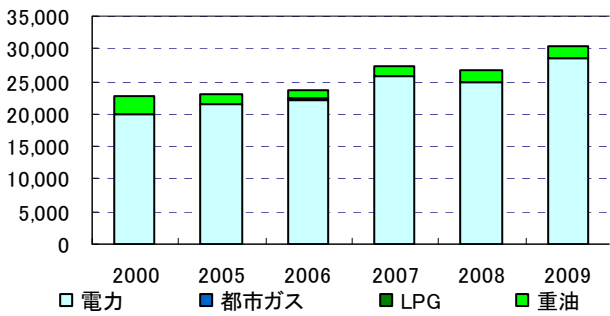
加賀東芝エレクトロニクス株式会社

取締役社長

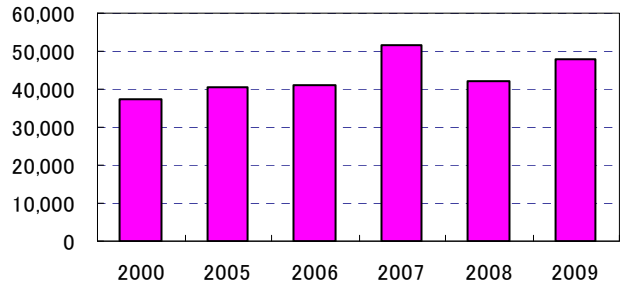
谷全祥市

環境負荷データ

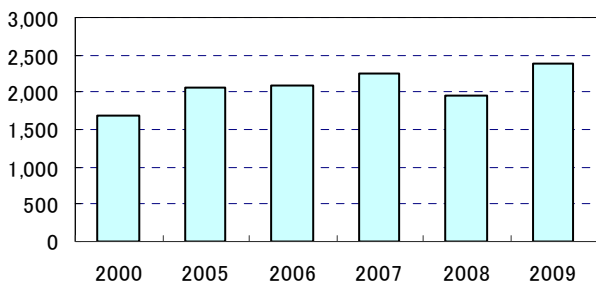
エネルギー使用量(単位:KL)



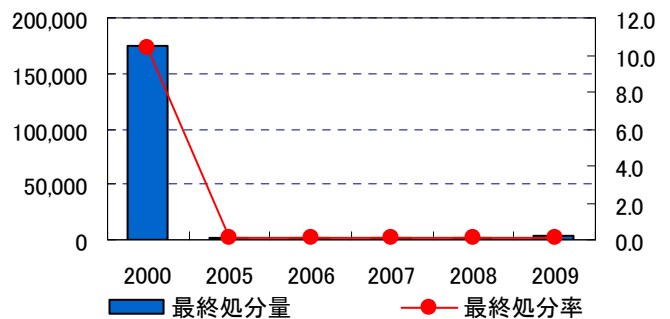
CO₂排出量(単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量(単位:トン)

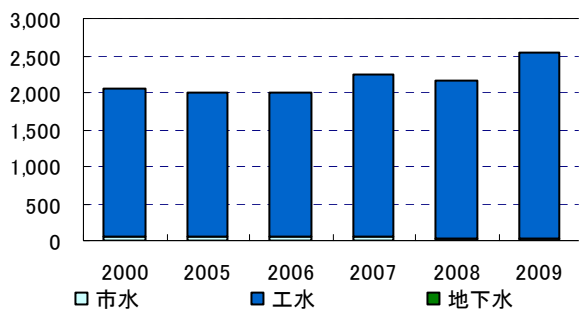


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:kg、%)

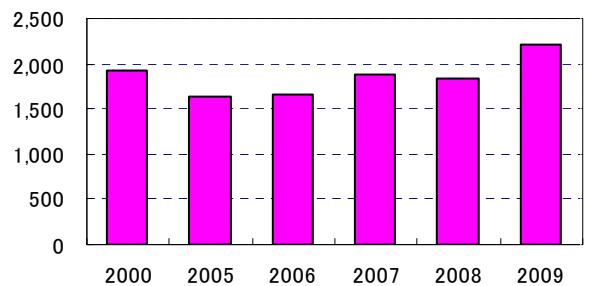


主な廃棄物名:汚泥、廃油、プラスチック、ガラス・陶磁器等

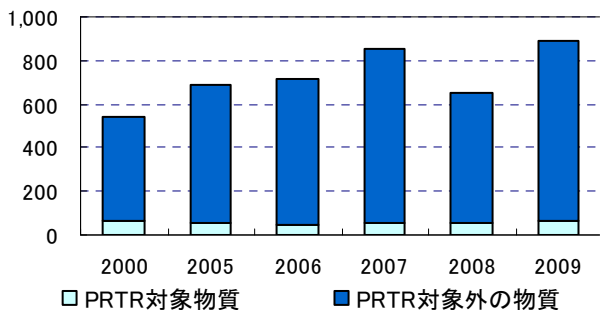
水の使用量(単位:千m³)



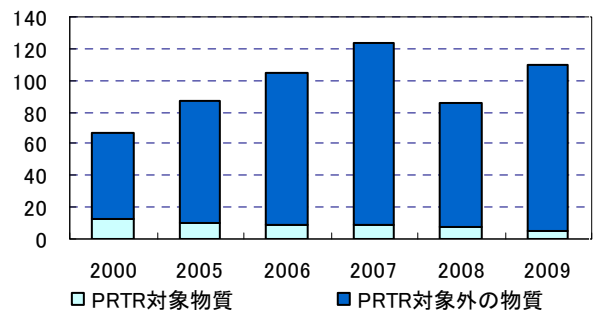
排水量(単位:千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量推移(トン)



化学物質削減対象物質の排出量推移(トン)



主な化学物質:硫酸、NMP、IPA、PEGME 等

遵法管理状況

大気測定結果(炉筒煙管式ボイラー(A重油使用)2台)

	法規制値(協定値)	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	180 (180)	150	110	年2回
SOx(Nm3/h)	17.48(8.75)	0.88	0.095	年2回
ばいじん(mg/Nm3)	300 (300)	30	17	年2回

排水測定結果(主な測定結果)(酸又はアルカリ表面処理施設、排水処理施設等、河川(専用暗渠～手取川)へ放流)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8～8.6(協定値)	6.6～7.5	7.2	月1回
BOD(mg/ℓ)	30(協定値)	8	<2	月1回
COD(mg/ℓ)	160(水濁法)	16	3	月1回
SS(mg/ℓ)	90(協定値)	12	7	月1回
鉛(mg/ℓ)	0.1(協定値)	0.01	<0.005	月1回
フッ素(mg/ℓ)	8(協定値)	4	3.9	月1回

騒音・振動測定結果(騒音 モールドプレス(機械プレス)、局所排気ファン(送風機)他、振動 コンプレッサー(圧縮機))

	測定場所・時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	指定地域外	70	51	年1回
	敷地境界:夜	指定地域外	60	—	任意
振動(dB)	敷地境界:昼	指定地域外	65	<30	年1回
	敷地境界:夜	指定地域外	60	—	任意

その他測定結果(浄化槽法:主な測定結果(浄化槽B))

	放流水質基準	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8～8.6(望ましい範囲)	5.8～8.6	6.3～7.0	年4回
BOD(mg/ℓ)	20(除く/既設浄化槽)	20	15	年4回
SS(mg/ℓ)	—	90	7.2	年4回

環境事故・指導指摘・苦情の有無

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし